

# 第57回 歴史探訪の会「池田で歴史散策」

実施日：平成29年7月19日(水曜)

場所：大阪府・池田市

案内人：澤田謙治(4888)

## 【コース】

阪急池田駅～呉服(くれは)神社～歴史的建造物集積地区～伊居太(いけだ)神社～五月山公園(昼食)～太広寺～池田城跡公園～小林一三記念館～阪急池田駅

梅雨明けが発表され、集合時間の午前10時には気温はもう30度を超えて、夏本番となった猛烈に暑い一日でした。そんな暑い日に18名の方に参加頂き、「池田ボランティアガイド」のガイドさんの案内で池田の史跡を訪ねました。

大阪府北部に位置する池田市の歴史は古く、古代～中世には秦氏や坂上氏といった渡来系氏族が住んだと言われ、南北朝時代から戦国時代には国人池田氏が居を構え、織田信長の摂津侵攻に対抗しました。

江戸時代には能勢街道によって交通の要衝、物資の中継地として栄え、茶の湯に最適とされる池田炭、酒造業、植木産業などにより経済的に繁栄しました。明治時代以降は阪急グループの創始者小林一三により日本最初の分譲住宅など開発が進みました。

池田市には生活の基本「衣・食・住」に係る“一番最初”があります。衣について、池田は呉の国から裁縫の技術が日本に伝わった地と伝えられ、食では日清食品の創業者、安藤百福が世界発のインスタントラーメン「チキンラーメン」を開発した町であり、そして住に関しては小林一三が日本初の郊外型分譲住宅の建設・販売を行った場所です。又、2003年のNHK朝ドラ「てるてる家族」のモデルとなった歌手・女優の石田あゆみの実家も池田市にありました。(現在はマンションになっています)



池田市のゆるキャラ“ふくまる”。気温は既に31℃  
“ふくまる”のモデルはウオンバット



ガイドさんから池田の見どころについて説明  
この場所は「てるてる広場」と呼ばれてます

## 【呉服(くれは)神社】

応神天皇の時代に呉の国から呉服媛(くれはとりのひめ)、穴織媛(あやはとりのひめ)姉妹らの縫工女が池田にやってきて、機織、裁縫の技術をつたえたとされる「呉服・穴織伝承」が日本書紀にあります。呉服神社には呉服媛と仁徳天皇がご祭神として祀られています。絹布類を指す「呉服」と云う言葉の語源でもあります。五月山山麓にある伊居太(いけだ)神社が「上の宮さん」とされるのに対し、呉服神社は「下の宮さん」と呼ばれています。

謡曲の「呉服」という曲目には、時の天皇の臣下が住吉に参詣し、西宮に向かう途中に呉服の里(池田市)を通りかかったところ呉服媛、穴織媛に出会った、というくだりがあります。今回はガイドさんから謡曲「呉服」をご披露頂きました。



池田駅から呉服神社へ向かう途中の鳥居



呉服神社拝殿

この神社の周辺の室町地区は阪急電鉄の創始者、小林一三が1910年(明治43年)に開発した日本最初の郊外型分譲住宅です。鉄道沿線に分譲住宅を開発するというのは後に電鉄会社のビジネスモデルのひとつになりました。当時から居住者の組織が結成され、現在もコミュニティ活動を行っています。2005年には「池田室町住民憲章」が制定されています。

## 【栄町商店街】



池田市のマスコット、ウォンバットの彫像



石田あゆみの実家があった場所(現在はマンション)

## 【歴史的建造物集積地区】

### ① 旧加島銀行・池田支店

NHKの連続テレビ小説「あさが来た」のヒロインのモデルである広岡浅子が設立した旧加島銀行・池田支店の建物で、国登録有形文化財です。東京駅の設計で有名な辰野金吾が設計にかかわっていて、1918年(大正7年)に建築されました。それとなく東京駅を連想させる外観となっています。尚、外から見ると鉄筋コンクリート造りの様に見えますが実際は木造モルタル2階建てです。建物の中には当時の大金庫が現存しています。



旧加島銀行 池田支店(現在はインテリア商品のお店)



店内にある当時の大金庫、沢山お金が入りそう・・・

### ② 吉田酒造

かつてはたくさんの酒蔵があったそうですが、現在は2軒のみが酒造業を営んでいます。一つは「呉春酒造」、もう一つは「緑一」を今も造る吉田酒造。1697年(元禄10年)の創業で、今日に至るまで300年以上営み続けられています。今回は外から見るだけで試飲は無し・・・(残念?!)

### ③ 池田呉服座

ももとの呉服座は明治時代に建てられ、猪名川の堤に沿って位置した芝居小屋でした。昭和44年に廃業し、今は愛知県犬山市の「博物館明治村」に移築・展示されています。現在の呉服座は元々あった映画館を改装し平成22年にオープンしました。



現在の池田呉服座

### ④ ビリケンさん

繊維商社の田村駒(株)の創業者である田村駒次郎が明治末期に商標登録し、田村駒(株)や通天閣にあります。

田村駒次郎が池田市出身と云う事で設置されました。手が短くて足に手が届かない事より、足をなぞてあげるとご利益があるといわれています。池田市にビリケンさんがあるなんて知らなかった人も沢山おられたのでは。。



池田市にあるビリケンさん

### 【伊居太(いけだ)神社】

池田市に現存する最古の神社とされており、ご祭神として応神天皇、仁徳天皇と呉服神社に祀られている呉服媛(くれはとりのひめ)の妹とされる穴織媛(あやはとりのひめ)を祀る神社で「上の宮さん」と呼ばれている。

かつては呉服神社よりも伊居太神社の方が賑わっていたとの事。

現在の社殿は 1604 年(慶長 9 年)に豊臣秀頼によって再建されたものです。



### 【五月山公園】

桜、ツツジ、紅葉の名所でシーズンには賑わっています。無料の動物園(日本一小さい、ひょっとすると世界一小さい?)ではオーストラリアに生息するウォンバットやワラビー、アンデス山脈の高地に住むアルパカなどがいます。(高地の寒いところに生息するアルパカの獣舎にはエアコンが完備されています)

ここで昼食を摂り、五月山ドライブウェイを車に気を付けながら一列渋滞で次のスポット大広寺へ。

### 【大広寺】

曹洞宗のお寺で、かつてこの地に居城を構えた池田氏の菩提寺。玄関の天井は「血天井」と呼ばれ、1507 年(永正 4 年)の細川高国と細川澄元らの室町幕府管領家の家督相続争いで(両細川の乱)、澄元に味方した 6 代城主の池田貞正が細川高国に攻められ、池田城は落城し、貞正が切腹したときの板が張られています。

山門には白い龍が飾られています。この龍は毎晩水を飲みに行き、音を立てるので住職は眠れなくて困り、これを辞めさせるようと龍の目を白く塗りつぶしたところじっとしているようになったとの言い伝えがあります。

小林一三夫妻の墓や、在団中、退団後に亡くなった宝塚歌劇団員の慰霊碑もここに 있습니다。



大広寺本堂



山門にある龍のこて絵

### 【池田城跡公園】

南北朝時代～戦国時代にかけて現在の池田市などを支配していた国人池田氏が城を構えた場所で跡地を城跡公園として整備し2000年(平成12年)にオープンしました。園内のやぐらから池田市街地や大阪平野が見渡せます。



池田城跡公園内のやぐら



大手門

### 【小林一三記念館】

阪急電車をはじめとした阪急グループの創始者小林一三の旧邸である「雅俗山荘」を中心に小林一三の業績を紹介する施設として2010年に開館。起業家小林氏の華麗なる軌跡を当時の資料・写真・映像等で紹介し、逸翁(雅号)が構想を練った書斎等旧宅跡も公開されています。

「雅俗山荘」の内部は2009年に文化庁より「雅俗山荘」、茶室「即庵」・「費隠」、正門の「長屋門」及び「塀」が、国の登録有形文化財(建造物)に認定されたことを機に、小林一三が居住当時の状態に復元され、往時を偲ばせます。



ガイドさんから邸内の見どころを聞いています



雅俗山荘

### 【小林一三氏について】(小林一三記念館 HP より)

小林一三は、1873(明治6)年、現在の山梨県韮崎市に生まれました。「一三」の名は、誕生日1月3日に因みます。19歳の時に慶應義塾を卒業し、三井銀行で本店勤務の後、大阪支店に赴任します。元来、文学青年で小説家志望で

あった一三ですが、銀行員時代の先輩達との出会いから事業の面白さに目覚めていきました。

1907(明治 40)年、三井銀行を退職し、箕面有馬電気軌道(現、阪急宝塚線・箕面線)を創立します。1910(明治 43)年運行を開始した電車事業は、沿線の住宅開発を共に行うという独創的なアイデアによって好調なスタートを切りました。

1920(大正 9)年には神戸線が開通し、社名も阪神急行電鉄と改め「阪急電車」として親しまれます。一方、梅田には、1929(昭和 4)年、阪急百貨店(現、阪急うめだ本店)を開業し、洋食をメインとした大食堂は人気となりました。

また、宝塚歌劇や阪急ブレイブス、そして東宝を設立するなど、たくさんの人たちが楽しむ事業を次々に成功させていきました。一三のユニークな発想から生まれたビジネスモデルは私鉄経営を始めとする各地の事業者達に影響を与えました。そうした手腕が見込まれて、東京電燈(現、東京電力)の経営を立て直し、1940(昭和 15)年には第二次近衛内閣の商工大臣、戦後には戦災復興院総裁に任命されました。

一三個人としても、幅広い著作を遺した文化人としての素顔を持っています。日常の暮らしの中では、趣味の俳句や茶の湯を通じて多くの人々との交流を楽しみました。多方面に足跡をのこした一三は、1957(昭和 32)年、享年 84 歳で没しました。しかし、お客様への新たな生活と楽しみの提案を第一とする一三の精神は、現在も阪急阪神東宝グループの様々な会社によって受け継がれています。そして一三が創始した数々の社会事業・文化事業は、今もなお社会の中で発展を続けています。

小林一三記念館から阪急池田駅に向かう途中のさくら通りではさまざまな石のアートを見る事ができます。



池田城跡公園にてガイドさん(前列右端)と共に

とっても暑い一日でした。最後に訪れた小林一三記念館、エアコンがきいた館内は「砂漠のオアシス」でした。猛暑のなか一日案内をして頂いたガイドさん、どうもありがとうございました！